

オオサンショウウオ保護実験

三重県伊賀市で予定されている川上ダム建設に伴い、建設予定地に生息する国の特別天然記念物オオサンショウウオの保護策を探ろうと、水資源機構川上ダム建設所が仮設保護施設で繁殖に成功した。人工的な繁殖は全国でも広島市安佐動物公園に次いで二例目。保護策としては『成功』だが、繁殖した個体は生態系に影響を及ぼす可能性などから、勝手に放流もできず、関係者は頭を抱えている。

伊賀のダム建設予定地



●生まれたオオサンショウウオを飼育する人工保護施設

設置のコンクリート巢穴で暮らすオオサンショウウオ。いずれも2月9日、三重県伊賀市内で

繁殖50匹 川戻れず？

ダム建設が予定され査した結果、予定地一帯で九百七十三匹のオオサンショウウオが確認された。ダム湖がで

保護施設は、上流に移す際にどのよくな

きると生息が難しくな

境を整備するかを実験するために設けた。継

十一尺、横三十二尺の

コンクリート製で人工

「まだ増える可能性が

逐して、生態系のバランスを崩す懸念がある

ことが分かった。

川上ダム建設所の大い」と指摘する。

三重県教育委員会文



生態系に影響懸念

巣穴などを設置。ここある。移転先の生息環境を調査して、できれば獲したオオサンショウウオを育てたところ数匹が産卵した。現在、五十五匹にまで増え、順調に成育している。

自然界と違つて外敵がおらず、えさが豊富に与えられるため成長が速いとみられる。

最初、ダム建設所は繁殖した個体を元の川に戻す予定だった。ところ

オオサンショウウオ

岐阜県以西の本

州、四国、九州の一部に分布する日本固有で最大の両生類。水がきれいな溪流にすみ、一生のほとんどを水中で過ごす。夜行性で60年程度生きるとされる。成体の体長は40~120cm。川上ダム建設予定地では100匹を超える成体が見つか

ころが、オオサンショウウオは一定の地域で生息できる個体数が限られ、育ちの良い保護さん（五五）は「ふ化後、池産が天然の個体を駆逐して、生態系のバランスを崩す懸念がある」と懸念を示す。これが分かった。川上ダム建設所の大い」と指摘する。

三重県教育委員会文化財保護室の担当者も、「生態系への影響を考慮すれば放流は難しいかもしない」と懸念を示す。「これ以上保護できないとなれば、全国の博物館や水族館で代わりに飼育してもらおう返したい」と話す。

方法もある」と代替案を示している。